

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401764		
法人名	社会福祉法人 北串会		
事業所名	グループホームかをり		
所在地	長崎県雲仙市小浜町山畑3144		
自己評価作成日	平成22年1月22日	評価結果市町村受理日	平成22年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かをりは、自然が豊かで静かな場所にあり、一年中きれいな夕日を眺めることができる風景があります。敷地内で家庭菜園を行っており、多種類の野菜を育てながらその成長を楽しみつつ、利用者の皆様とともに自作園の野菜を収穫した食しながら、季節を常と感じられる雰囲気づくりを行なっています。また同法人である北串保育園の園児達との定期的な交流があり、お互いの行事に月に1回は参加・訪問することで、利用者と子ども達が接する機会が多いことが魅力の一つです。近所の方や近隣の小中学生らとも行事等での訪問があり、地域との交流を深めています。さらに利用者には毎月2回、整体師による訪問マッサージを施術していただくサービスも提供しています。スタッフ全員が利用者・家族に丁寧に接しながら、利用者一人ひとりに応じた個別な介護を実施し、笑顔と笑い声のたえないホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の優れている点は、利用者がそれぞれに自分のペースでリビングや居室、庭などで過ごすことができ、認知症であっても普通の暮らしを送られるよう職員が支援に努めている点である。利用者が自分で行えることは自分であることを優先し、トレイ掃除や洋服の衣替えなどしている点も見守りながら支援している具体例である。介護計画書はわかりやすく3ヶ月に1度の見直しも確実に実施されており、日々の身体リハビリ表、健康チェック表などの記録、受診記録を活かし継続や中止などの評価をして次の計画に反映させている点は優れているといえる。また、運営推進会議では活発な意見交換があり運営に活かされており、また1ヶ月の便りは利用者の様子がわかりやすく記述されており家族が安心できる工夫がみえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	H17年度に新しい運営理念をたて、その理念のもとにサービス提供を行っており、地域密着を実践しつつも仏教福祉の精神も実践にいかすよう心がけている。	事業所の理念の「和合心」を基にケアの具現化を話し合っている。「命に感謝をする」という基本に沿って利用者と丁寧に接し、敬意を払いお互いの信頼関係を築く支援が話し合われ実践されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に定期的に行事への参加を案内したり、また日頃より近隣の住民の方とも利用者・職員ともに挨拶する姿がみられる。また外では利用者との会話もたまにあり、お互い日常的な付き合いもできている。	自治会に加入しており、地域と職員の交流がある。また、ホームへの小学生や幼稚園の訪問があるときなど地域の方にも声かけを行っている。散歩時にはあいさつを交わしたり地域の一員として周知され交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人が限定されているかもしれないが、利用者と地域の方が知り合い・交流していることで、認知症の理解と支援へと繋がっているように感じる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開き、各委員との意見交換をおこない、他の職員も議事録等でその意見を共有することで、サービス向上に活かし、新たな取り組みも行なった。	3ヶ月に1度、規定のメンバーで開催されている。ホームの状況や外部評価、行事報告の他、参加者との意見交換もなされている。医療連携や口腔ケアなどを議題にメンバーで検討したり、体操を実施するなどの意見をサービス向上に役立てている。	年6回の開催が省令でも定められており運営推進会議は、2ヶ月に1度開催実施される事が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回小浜町地域ケア会議に参加し、他の介護事業所や包括支援センターとの事例検討会を行っており、ときには当ホームの事例についても相談・意見交換していただいている。また行政の情報提供の場にもなっている。	毎月の小浜町地域ケア会議に参加しており、市担当者との意見交換が行われている。又、必要書類などの情報を得たり、生活支援者の担当職員との連携もとられており、協力関係を築くよう働きかけに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、何が拘束にあたるのかなどその都度ミーティング等で確認したり、玄関は施錠せず利用者の自由な行動を優先しながら見守っている。	身体拘束についてミーティング時に事例をもとに話し合っている。また言葉による拘束についても議題に上がっており、気づいたときに職員間でも話されている。玄関は日中施錠せず、自由に出入りできるなど拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴の際に利用者の健康チェックをすると共に、施設内での虐待等がないか確認している。また職員に虐待防止の研修会にも参加したり、研修内容を各自確認するようにしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長・管理者が権利擁護に関する研修を受講しているが、他の職員は未受講者もいるので、今後学ぶ機会を作るよう取り組みたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず契約書と重要事項説明書の内容を説明を行ない、ご家族への理解を図っている。また質問事項あればその都度理解して頂けるようわかりやすくお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を用意し、また直接利用者から要望や意見の申し出があった場合は、その都度解決に向け職員で話し合っている。意見を運営に反映させる場合は、ご家族にお手紙などでお知らせすることもある。	意見箱を準備したり、訪問時や電話など家族との交流を図り意見や要望を聞くようにしている。利用者の通院介助時などを利用してマンツーマンで話しを聞く機会を持ち、出された要望はミーティングで話し合い検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて職員からの意見を言うような取り組みを行っており、反映できるよう努めている。また毎朝の申し送りを行ない意見を聞く機会を作っている。	毎月のミーティングに代表も参加している。職員からは介護に関する提案だけでなく、物品購入などの要望もあり、代表は検討して反映している。ただし、理念のもと同じ志ではあるものの代表と職員の支援の方法について考えが異なることもある。	代表と職員は同じ理念のもと、利用者本位の支援に努めているが、その手段や考えに相違がある場合は第三者を交えるなどして互いの理解に努めることが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力・実績を鑑みながら、また個々の希望に応じながら、給与や労働時間など変更することがある。また勤務日程などは希望に応じて職員同士の協力のもと予定表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修会については内容をみて必要に応じて職員一人ひとり参加している。また経験年数のもと実践者研修・リーダー研修等の参加も促したり申し込んだりしている。研修後は、ミーティングや記録等で報告を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回の小浜町地域ケア会議に参加し情報交換の場に出かけたり、地域の研修会等にも参加し、サービスの質の向上に努めている。また毎月のミーティングでは、他の事業所の方に参加してもらい、介護指導・助言を頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があった場合は、ご家族から本人状況・環境等について聞きだし、また入居時には本人の要望等を聞き、話し合いの時間を多く持ち、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に今の現状と経緯をご家族の方にできるだけ聞き、本人に対する思いやホームへの要望について聞きだす。また重要事項説明書を丁寧に説明しながら、施設へ安心感を持っていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の現状と経過をきちんと把握したうえで、グループホームを含め、介護サービス全体からの関わりを説明している。希望時には他のGHや施設のご案内も伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との会話を大切にし、何事にも声かけから始まる介護を心がけている。料理、片付け、洗濯物干し、掃除などの日常生活と一緒にしないながら、本人との距離を縮め、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは面会の際には、最近の様子について伝えるようにしている。ご家族の思いだけでなく、ホームの思いも伝え、お互いが協力し合う関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み理美容室へ通う支援や友人知人への訪問支援(ご家族確認後)や、月命日の帰宅支援など本人の習慣にあわせて、それまでの関係の継続の支援を行なっている。	利用者の馴染みの美容院へ出かけたり、思い出の場所などへのドライブなど職員が同行している。遠方には手紙や電話の支援も行われている。また、知人宅への訪問や月命日法要など家族の協力を得た支援も継続的に行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握し、様子や発言を注意深く観察し、それに応じて、さりげなく利用者の行動の誘導や会話の間に入ったりして、孤立や対立がなく皆さんが何らかの形で関われる生活支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にも、本人の様子を伺いに行ったり、必要であればしばらく施設用品を貸し出ししたりして、相談や支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望が何か、会話のなかで聞くよう心がけている。また面会等があった場合、ご家族を通して本人の意向について知るよう努めている。	職員は利用者とゆっくり話す時間を持つよう心がけている。これまで得た情報や支援経過から本人の意向を把握するよう努めている。また、発言困難な場合はホワイトボードや身振りなどで、利用者の思いを読み取るよう工夫し、本人本位の支援になるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの生活歴に対して、入居時ご家族からよく聞きだし、その情報を職員間で共有している。また必要に応じ、足りない事項についてはあとで本人やご家族に聞き確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや記録やミーティング等で、利用者のできること、できないことを皆で把握するように努め情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員担当者が本人の日頃の様子をよく観察したうえアセスメントをとり、カンファレンスではそれを基本として介護計画について皆で話し合い作成している。また本人やご家族の発言を交えながら、要望に応じるように工夫している。	介護計画は3ヶ月で見直しを行っている。本人の希望を聞き、家族には訪問時や電話で要望を聞き、反映している。支援の実施状況は日々記録されており、次の計画に向けて評価も行われている。担当者はケアカンファレンス時に他の職員から出た気づきをまとめ介護計画書作成に関わっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成し、日々の健康チェックや細かい日々の変化についても、特記事項を設けて記録している。またそれらをファイルして、職員間で情報が共有しながら必要に応じて介護計画を変更し作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望に応じて、面会の送迎を行なっている。また医療連携体制を行なうことで、利用者へ医療面から看護師の支援・指導を行なっている。		

グループホームかをり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小中学生等との交流会や学生の職場体験などを通し、また近隣の方との関わりを保ちながら、本人が楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望するかかりつけ医に出来る限り通院するように支援している。また個別で定期的に往診してもらっている医院もある。	本人、家族希望のかかりつけ医受診は施設長や職員が受診支援をしている。歯科医は往診があり、緊急時は協力医と連携を取っている。受診後の報告、薬の変更は電話と月に一度の便りにも書いており、適切な支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として地域の看護師と契約し、利用者の健康状態等についてチェックしてもらい、指導してもらっている。また何かあればホームからでも連絡し、夜間でも相談に応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は必要に応じて付き添いをしたり、面会を行ない、本人の状態をご家族や病院から聞いて確認している。また退院に向けては医師・看護師や相談員と連絡をとりながら早期退院に向け連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けては、指針を設けて、入居時にご家族に説明している。また状態の変化に応じて、ご家族の希望等について確認し合うように努めているが、病院関係者とはホームが安心できるほどの十分な連携がなかなか取れない点はある。	重度化、終末期の指針は契約時に説明をして同意を得ている。昨年、事業所として初めての看取りを行なった。実際に行なった事をもとに対処の方法、家族への説明などのマニュアルを作成している。ただし、医療機関との連携体制の確率、職員の精神的負担の軽減、看取りへの理解について課題が残っている。	職員の看取りに対する不安を軽減し、支援できるよう、職員研修の実施と医療機関との密な連携体制の確立が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応マニュアルや緊急時連絡網を作成し、すぐに医療機関へ連絡するように取り組んでいるが、定期的な訓練による実践力はいない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出来るだけ月に一回、マニュアルをもとに避難訓練を行なうようにしている。スプリンクラー・自動火災報知機・火災通報装置を設置している。	年2回の避難訓練のうち、1回は夜間想定で実施している。地震、風水害のマニュアルは整備しており、台風前には物を片付け、備蓄をしている。ただし、地域住民の参加、消防署立会いの訓練がない。	年に1度は消防署、地域の方々との災害訓練を実施し、課題の抽出から次の訓練に繋げることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、丁寧な言葉遣いを心がけている。外来者に対して、特定の利用者のプライバシーに関しては話さないように指導しており、個人記録等の書類の持ち出しも禁止している。	利用者には丁寧な言葉で話しかけるよう職員は心がけている。部屋に入る際にはノックし、浴室でもプライバシーを損ねない支援をしている。個人記録は事務所に保管しており、職員の守秘義務の誓約書も取るなど利用者の人格を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に選択視が持てるよう声かけし、意志表示が困難な方には、ホワイトボードやゼスチャーなどで、本人の気持ちを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣ごとや行事に関して、本人の気分や体調や希望に合わせて行動してもらっている。習慣になっている手伝いなども日によって、本人の意志でされないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗面時は皆さま、出来る限り自分で整えてもらい、足りないところを支援している。毎日の着る服も一緒に相談しながら選ぶこともある。また理容・美容は馴染みの場所に行かれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを優先し、その日などに尋ねながら献立を行なっている。また収穫した野菜など一緒に下ごしらえすることもある。片づけ時はよく利用者の方に手伝ってもらっている。	献立は利用者に聞きながら要望を入れている。利用者は食器洗いや片付けなど手伝い、職員は食事介助しながら一緒に食卓を囲んでいる。刻み対応も行なっている。時には外食の希望に沿って外出時に食事をするなど、利用者の楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり毎日水分摂取量を記録し、また本人の身体の状態や習慣に合わせて、食事量や形態、メニューを調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・口腔ケアを一人ひとりに促し実施している。また必要に応じては声かけのあと見守りをしたり、介助をして口腔ケアに努め、口腔状態の把握にも努めている。		

グループホームかをり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々排泄の記録を行ない、パターンを把握して、必要時に声かけ、誘導を行なっている。結果失敗を減少ができています。また人によりおむつの使用の仕方も変えている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、誘導している。日中に限らず夜間もトイレ誘導することで、夜間のオムツ使用も軽減しており、排泄の自立を支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為、体操や歩行など運動を行ない、必要な人は水分補給や野菜果物ヨーグルトなど繊維質や乳製品等の摂取をしていただき、自然排便への取り組みをしている。またかかりつけ医にも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ホームで入浴予定日を決めているが、本人の希望に応じ、入浴時間をずらしたり、延ばしたりしている。入浴を楽しんでもらえるよう、声かけしながら、入浴介助している。また出来るところは自分で洗ってもらっている。	基本は週3回入浴日としているが、病院受診の日には、入浴日を変更したり、シャワー浴にするなど柔軟に対応している。入浴は職員とマンツーマンになれる時間でもあるためその時間を大切に思いを聞くなど支援に反映している。同性介助も行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動してもらるように促すが、一人ひとりの体調や表情をみて、居室やソファで休んでもらったりしている。また夜の入眠までデイルームで居室やTVをみられる方もいる。本人の希望により眠剤服用されている人もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬管理表を作成し、薬の管理の際にも必ず薬品名・用量・作用を記入し、注意深く取り扱い、職員全体が薬について把握するようにしている。また服薬の変化があった際は必ず申し送りし記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者にあわせて、お手伝いなどの役割を持ってもらい、毎日の生活習慣としてもらっている。またときには気分転換に各々、ドライブや個別外食、ビールや焼酎の嗜好物の飲食を行なっている人もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物等を希望されたらできるだけ支援し外出を支援している。しかし希望に添えない日もあるので、日を改めていくこともある。行事を活かして希望の場所に行くこともある。	天気の良い日は周囲を散歩している。一人で散歩する利用者もいる。買い物は希望者を募り、ドライブを兼ねて出かけたり、紅葉やつつじなどの花見には家族の協力も得ながら支援に努めている。	

グループホームかをり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使える人は、買い物などでもご自分で支払をされている。また本人とご家族の希望がある場合は、手元にお金を管理されている人もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方は今はいないが、本人が希望されたら、相手の方に電話で会話して貰えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームは南西側で常に明るく、窓から畑や海も広がり、年中夕日が見えることから、季節感も感じられる空間になっている。また季節に応じて飾り物や掲示物も変えて、居心地の良い空間づくりに努めている。	共有空間は毎日掃除機と拭き掃除を行い清潔で快適な空間になっている。日中、利用者はリビングで過ごすことが多く、趣味を活かしながらかり絵や裁縫などを楽しんでいる。季節感のある花や装飾もあり、職員は利用者の居心地のいい空間となるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファとテーブル椅子が別々にあり、それぞれテレビを見たい人、ゆっくりしたい人、作業をしたい人と、気分に応じて居られる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを置いてもらい、居心地の良い居室作りに努めている。希望や必要に応じて畳を入れたりして個人に合わせ、また居室には家族との写真を中心に飾っている。	居室は利用者それぞれに馴染みの物を置いている。自宅で使っていたテーブルやテレビ、家族の写真や趣味で作った作品など、個性のある過ごしやすい居室になるよう職員が支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すりや目印になるものを設置、掲示しており、自立支援に向けてそれぞれの安全に生活できるようにしている。また一人ひとりに合わせて歩行器などの用具等も準備している。		